

施設園芸・植物工場の実態調査 調査票 太陽光型・併用型



I. 貴組織の概要について

ID: (Office Use)

ご記入・ご選択をお願い致します ※事前記載事項に間違いがございましたら赤字でご訂正ください

実施事業者名				ウェブサイト URL:	
組織形態	☐ 農地所有適格法人(農業生産法人) ☐ 農業者(個人) ☐ 株式会社(農地所有適格法人を除く) ☐ その他				
施設名	☐ 実施事業者名に同じ			栽培開始:西暦	年
施設住所				年間売上:約	百万円
雇用者数		正規	非正規・パート	期間雇用:	人
	通年全体	人	人	障がい者雇用:	人
	うち生産・出荷に関わる人員	人	人	外国人実習生:	人
回答者ご連絡先 確認の連絡をさせて 頂く場合がございます	ご担当者名:			ご所属: ☐ 事業者 ☐ 施設	
	電話番号:			メールアドレス:	

1. 操業状況 当てはまるものに ☒ をつけてください
☐ 操業中 ☐ 操業停止 理由をご記入ください

※「操業停止」を選択された場合は、こちらで終了です。ご協力ありがとうございました

2. 施設設置の主たる目的 主目的に当てはまるものを1つ、そのほかの目的として当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

主目的(1つ)	☐ 農産物生産・販売 ☐ 原材料調達(加工販売) ☐ 設備製造・販売 ☐ 研究 ☐ 福祉 ☐ その他()
その他目的	☐ 農産物生産・販売 ☐ 原材料調達(加工販売) ☐ 設備製造・販売 ☐ 研究 ☐ 福祉 ☐ その他()

3. 栽培用施設 それぞれご記入・ご選択ください

①栽培用施設総面積	②軒高	③年間総生産量	④CO ₂ 施用有無
m ²	m	トン/年	☐ なし ☐ 液化 CO ₂ ☐ 白灯油 ☐ その他()

4. 環境制御・栽培システム関連 それぞれご選択・ご記入ください

熱源	☐ A 重油 ☐ 灯油 ☐ ガス・LPG ☐ 農業用ヒートポンプ ☐ 家庭用ヒートポンプ ☐ 排熱等利用 ☐ バイオマス(ペレット・チップ他) ☐ その他()
保温・遮光カーテン	☐ 一層 ☐ 二層 ☐ 三層 ☐ なし
冷房・冷却・除湿	ヒートポンプ(☐ 冷房 ☐ 除湿) ☐ 細霧冷却 ☐ パッド&ファン ☐ その他() ☐ なし
栽培方式	☐ 土耕 ☐ 養液栽培(☐ 点滴 ☐ 底面 ☐ NFT ☐ DFT ☐ 噴霧) ☐ その他()
栽培培地	☐ ロックウール ☐ ココピートなど ☐ ウレタン ☐ その他()

II. 栽培について

1. 栽培形態 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、使用開始年をご記入ください
☐ 太陽光のみ利用 ☐ 栽培のための補光あり ☐ 育苗のみ人工光を利用 ☐ その他(栽培以外の用途)

→「太陽光のみ利用」以外を選択した方は、光源を選択下さい(複数可)

☐ 高圧ナトリウム・蛍光灯等(西暦 年) ☐ 白色 LED^{※1} (西暦 年) ☐ その他((西暦 年))

※1 青色、赤色 LED 等はその他の欄にご回答下さい

2. 原水 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください
☐ 灌水・養液用の原水は ☐ 井水 ☐ 農業用水 ☐ 上水 ☐ その他(例:雨水等)

3. 施設全体および各品目の栽培状況について それぞれご記入・ご選択ください

	品目名	栽培実面積 ^{※2}	年間生産量	栽培期間
1) 主要品目		m ²	トン/年	☐ 通年 ☐ 一時期(月 ~ 月)
2) その他品目		m ²	トン/年	☐ 通年 ☐ 一時期(月 ~ 月)
3) その他品目		m ²	トン/年	☐ 通年 ☐ 一時期(月 ~ 月)

※2 栽培実面積は、その作物を栽培する場所の合計面積をご回答下さい

4.廃棄はありましたか ☐ ない ☐ ある ☐ 可販生産物 ☐ 生育不良等による廃棄) → 約 %※³ もしくは 約 トン
理由

※³ 全体の生産量に対する比率をご回答下さい

5.再生可能エネルギーについて それぞれご選択・ご記入ください

再生可能エネルギーを ☐ 使用中 ☐ 使用検討中 ☐ 未定

▶ 使用(検討)中の場合、【用途】 ☐ 電力 ☐ 熱源 ☐ その他

【エネルギー源】 ☐ 太陽光 ☐ 風力 ☐ バイオマス ☐ 地熱 ☐ その他 ()

6.労働時間 それぞれご記入ください

①施設全体(職員全員)の年間積算労働時間(経営・営業等含む)					年間	時間
②主要品目の栽培・出荷に係る年間積算労働時間(経営・営業等含まない)					年間	時間
③主要品目の栽培・出荷に係る作業比率 合計 100%となるようご記入下さい						
育苗	定植	施肥	栽培管理※ ⁴	収穫	出荷(調製、選果、袋詰め)	その他
%	%	%	%	%	%	%
						100%

※⁴ 栽培管理は、誘引・芽かき・葉かき・清掃・残渣処理などを含みます

Ⅲ.経営について

1.直近の営業利益の状況 当てはまるもの1つに ☒ をつけてください

☐ 黒字 ☐ 収支均衡 ☐ 赤字

2.事業が安定的に黒字化または収支均衡となるまでに要した年数 当てはまるもの1つに ☒ をつけてください

施設稼働時から ☐ 1~3年 ☐ 4~6年 ☐ 7~9年 ☐ 10~15年 ☐ 15年以上 ☐ 安定していない

3.活用している行政等の補助金 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、事業名・内容などをご記入ください

☐ 設備投資関連 ☐ エネルギー関連 ☐ その他(事業名または内容:) ☐ なし

4.生産・経営上の課題と対策・工夫 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、その対策・工夫をご記入ください

課題	☐ 収量の向上・安定	☐ 品質の向上・安定	☐ コスト削減	☐ 病虫害対策	☐ 新品種導入	☐ AI・スマート化への対応
	☐ 労務管理	☐ 人手不足	☐ CO ₂ 排出削減	☐ 販路開拓・営業	☐ 海外展開	☐ 資材・肥料等の確保
	☐ 残渣処理					
	☐ 研究・技術開発	☐ その他 (				
※上記課題およびその対策・工夫(自由記述) 例:収量安定のための二酸化炭素の施用、栽培技術向上のための作業工程の標準化等						

5.コスト構造

① 各費用の比率 施設全体の各費用の比率が合計 100% となるようご記入ください

	①人件費	②減価償却費	③水道光熱費	④種苗・資材費	⑤物流・輸送費	⑥その他 ()	合計
費用比率	%	%	%	%	%	%	100%

② 各費用の前年増減比率 各費用の前年比をご記入ください

	①人件費	②減価償却費	③水道光熱費	④種苗・資材費	⑤物流・輸送費	⑥その他	⑦全体
前年比	%	%	%	%	%	%	%

例:前年度と比較し、20%増えた場合:120%と記入、前年度と比較し20%減った場合:80%と記入ください

6.生産コスト増加に対する対策 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 仕入先/販売先などの変更 ☐ 販売先への価格転嫁 ☐ 事業多角化 ☐ 生産規模拡大 ☐ 生産規模縮小 ☐ 事業縮小
☐ 行政支援活用 ☐ 新品種導入 ☐ 生産性向上 ☐ ロボット化・省力化 ☐ 出荷・輸送方法の変更 ☐ その他 ()
 具体例(自由記述):

7.主な出荷先と販売額の比率 当てはまるもの全てに ☒ をつけ件数、比率をご記入ください

主な出荷先	☐ 市場出荷
	☐ 市場外出荷(取引先件数: 件)
販売額の比率	市場出荷 % 契約栽培 % 直販・ECサイトなど % その他 % 計100%

IV. スマート化について

1. スマート化のシステム・ツール導入状況 使用中および導入を検討中のもの全てに ☒ をつけ、具体名をご記入ください
※1つのシステム・ツールに複数の機能がある場合、具体的な当該サービス・装置名をそれぞれご記入ください

	システム・アプリの目的	使用中	検討中	具体的なサービス・装置またはメーカー名
経営	①販売管理(実績管理ツール等)	☐	☐	
	②資材管理	☐	☐	
	③その他営農・販売支援(EC・フリマアプリ等)	☐	☐	
栽培	④栽培・作業記録・管理	☐	☐	
	⑤防除記録・管理	☐	☐	
環境制御	⑥環境制御	☐	☐	
自動運転・ 作業軽減 (ロボット等)	⑦移植・定植自動化装置	☐	☐	
	⑧収穫・搬送装置	☐	☐	
	⑨選果・包装装置	☐	☐	
センシング・モニタリング	⑩画像センシング(生育判定等)	☐	☐	
	⑪環境モニタリング(温湿度計測・記録システム等)	☐	☐	
	⑫作業モニタリング(IC タグの活用等)	☐	☐	
	⑬センシング・モニタリングその他	☐	☐	
その他	⑭その他※例:AIを活用したその他システム等	☐	☐	

2. スマート化のシステム・ツール導入後の効果 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 収量向上 ☐ 省力化 ☐ 品質向上・均一化 ☐ 収益性向上 ☐ 労務管理の適正化 ☐ その他()

3. スマート化のシステム・ツール導入・活用における課題 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 使用方法が難しい ☐ コスト ☐ 効果がわかりにくい ☐ 他システムとの連動性 ☐ その他()

V. 新型コロナウイルス感染症の影響 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、そのほかご自由にご記入ください

※コロナ禍およびウィズコロナによる日々の栽培・経営への影響、その対策や工夫、スマート化が役立った場面等ありましたら、ご自由にお答えください

☐ 人手不足 ☐ 販売先・売上げ減少 ☐ 販売先・売上げ増加 ☐ 資金不足 ☐ 調達・流通関連 ☐ その他 ☐ 影響なし

VI. 施設園芸に係る国の支援措置に対する要望 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、そのほかご自由にご記入ください

要望	☐ エネルギー高騰対策 ☐ CO ₂ 排出削減対策(例:施設・システム導入費の支援、技術開発の先導など) ☐ 異常気象対策 ☐ 技術開発のための研究支援 ☐ 人材確保支援 ☐ 研修・教育機会の提供・充実化 ☐ AI・スマート化への支援(例:無料アプリの提供や教育人材の派遣など) ☐ 海外展開時のフォロー ☐ 農地としての取扱い等 ☐ その他()
	※その他国の支援措置に対して要望など(自由記述) 例:SDGs 対応事業者への優遇、国主導での技術・システム開発等

自由記入欄 設問・調査票、その他ご意見等ございましたらご自由にお書きください

◆人工光型植物工場用

施設園芸・植物工場の実態調査 調査票 人工光型



Ⅰ. 貴組織の概要について

ID: (Office Use)

ご記入・ご選択をお願い致します ※事前記載事項に間違いがございましたら赤字でご訂正ください

実施事業者名				ウェブサイト URL:	
組織形態	☐ 農地所有適格法人(農業生産法人) ☐ 農業者(個人) ☐ 株式会社(農地所有適格法人を除く) ☐ その他				
施設名	☐ 実施事業者名に同じ			栽培開始:西暦	年
施設住所				年間売上:約	百万円
雇用者数	通年全体	正規	非正規・パート	障がい者雇用:	人
	うち生産・出荷に関わる人員	人	人	外国人実習生:	人
回答者ご連絡先 確認の連絡をさせて 頂く場合がございます	ご担当者名:			ご所属: ☐ 事業者 ☐ 施設	
	電話番号:			メールアドレス:	

1. 操業状況 当てはまるものに☑をつけてください

☐ 操業中 ☐ 操業停止 理由をご記入ください

※「操業停止」と回答された方は、こちらで終了です。ご協力ありがとうございました

2. 施設設置の目的 主目的に当てはまるものを1つ、そのほかの目的がある場合には、当てはまるもの全てに☑をつけてください

主目的(1つ)	☐ 農産物生産・販売 ☐ 原材料調達(加工販売) ☐ 設備製造・販売 ☐ 研究 ☐ 福祉 ☐ その他()
その他目的	☐ 農産物生産・販売 ☐ 原材料調達(加工販売) ☐ 設備製造・販売 ☐ 研究 ☐ 福祉 ☐ その他()

3. 栽培用施設 それぞれご記入ください

①建物延床面積	②衛生管理エリアの床面積	③栽培トレイの総面積※ ¹	④天井高※ ²	⑤段数/栽培棚	⑥CO ₂ 施用
m ²	m ²	m ²	m	段	☐ 有 ☐ 無

※¹ 多段式で複数段栽培している場合は各段の面積の合計をお答え下さい ※² 衛生管理エリアの天井高をお答えください

Ⅱ. 栽培について

1. 光源 当てはまるもの全てに☑をつけ、使用開始年をご記入ください

☐ 蛍光灯(西暦 年) ☐ 白色LED※³(西暦 年) ☐ その他((西暦 年))

※³ 青色、赤色LEDなどはその他の欄にご回答下さい

2. 電力 それぞれご選択・ご記入ください(複数選択可)

①現在の使用電力: ☐ 商用電力 ☐ 太陽光発電 ☐ その他再生可能エネルギー() ☐ その他()

②今後、再生可能エネルギーを ☐ 使用予定➡(☐ 太陽光 ☐ 風力 ☐ バイオマス ☐ 地熱 ☐ その他) ☐ 使用しない ☐ 未定

➡再生可能エネルギーを使用中もしくは使用予定の場合、蓄電用のバッテリーを ☐ 使用中 ☐ 設置検討中 ☐ 使用しない

3. 養液栽培システム 当てはまるもの全てに☑をつけ、使用開始年をご記入ください

☐ DFT (西暦 年) ☐ NFT (西暦 年) ☐ その他((西暦 年))

4. 養液用の原水および冷房・除湿時の結露水の利用について それぞれご選択・ご記入ください

①養液用の原水は、☐ 上水 ☐ 井水 ☐ 農業用水 ☐ その他

②養液の更新 ☐ 更新あり➡(頻度は 約 回/年、養液タンクの約 %/回) ☐ 更新なし

➡理由: ☐ 予防(定期的) ☐ 生育不良改善 ☐ 養液組成改善 ☐ その他

③結露水を養液タンクに戻す設備が ☐ ある ☐ ない » 理由

➡設備がある場合、結露水を利用 ☐ している ☐ していない » 理由

5. 施設全体および各品目の栽培状況について それぞれご記入・ご選択ください

① 年間総生産量: トン/年 (施設全体の生産量をトン換算でご記入ください)

	品目名※ ⁴	栽培実面積※ ⁵	年間生産量	栽培比率	栽培サイクル
1) 主要品目		m ²	トン/年	%	約 日
2) その他品目		m ²	トン/年	%	約 日
3) その他品目		m ²	トン/年	%	約 日

※⁴ レタス類を栽培している場合には、可能な範囲で、たとえば「フリルレタス」「グリーンリーフ」「ロメイン」など種類をご回答下さい

※⁵ 栽培実面積は、その作物を栽培する場所の合計面積をご回答下さい(多段式で複数段栽培している場合は各段の面積の合計をお答え下さい)

6. 廃棄はありましたか ☐ ない ☐ ある(☐ 可販生産物 ☐ 生育不良等による廃棄) → 約 %※6 もしくは 約 トン
理由

※6 全体の生産量に対する比率をご回答下さい

7. 労働時間 それぞれご記入ください

① 施設全体(職員全員)の年間積算労働時間 ※経営・営業等含む					年間	時間
② 主要品目の栽培・出荷に係る年間積算労働時間 ※経営・営業等含まない					年間	時間
③ 主要品目の栽培・出荷に係る作業比率 合計 100%となるようご記入下さい						
播種	移植・定植	栽培管理	収穫	出荷(調整・袋詰め等)	洗浄	その他
%	%	%	%	%	%	100%

Ⅲ.経営について

1. 直近の営業利益の状況 当てはまるもの1つに ☒ をつけてください

☐ 黒字 ☐ 収支均衡 ☐ 赤字

2. 事業が安定的に黒字化または収支均衡となるまでに要した年数 当てはまるもの1つに ☒ をつけてください

施設稼働時から ☐ 1～3年 ☐ 4～6年 ☐ 7～9年 ☐ 10～15年 ☐ 15年以上 ☐ 安定していない

3. 活用している行政等の補助金 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 設備投資関連 ☐ エネルギー関連 ☐ その他(事業名または内容:) ☐ なし

4. 生産・経営上の課題と対策・工夫 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、その対策・工夫をご記入ください

課題	☐ 収量の向上・安定 ☐ 品質の向上・安定 ☐ コスト削減 ☐ 病虫害対策 ☐ 新品種導入 ☐ AI・スマート化への対応
	☐ 労務管理 ☐ 人手不足 ☐ 環境への配慮 ☐ 販路開拓・営業 ☐ 海外展開 ☐ 資材・肥料等の確保 ☐ 残渣処理
	☐ 研究・技術開発 ☐ その他()

※上記課題およびその対策・工夫(自由記述) 例:収量安定のための二酸化炭素の施用、栽培技術向上のための作業工程の標準化等

5.コスト構造

① 各費用の比率 施設全体の各費用の比率を合計 100%となるようご記入ください。電気コストの内訳についても同様に記入してください

	①人件費	②減価償却費	③電気コスト	④種苗・資材費	⑤物流・輸送費	⑥水道費	⑦その他	合計
費用比率	%	%	%	%	%	%	() %	100%

電気コスト内訳			
照明	%	空調	%
その他(ポンプ等の機器類)		%	計 100%

② 各費用の前年増減比 各費用の前年比をご記入ください

	①人件費	②減価償却費	③電気コスト	④種苗・資材費	⑤物流・輸送費	⑥水道費	⑦その他	⑧全体
前年比	%	%	%	%	%	%	%	%

例:前年度と比較し、費用が20%増えた場合:120%と記入、前年度と比較し費用が20%減った場合:80%と記入ください

6. 生産コスト増加に対する対策 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 仕入先/販売先などの変更 ☐ 販売先への価格転嫁 ☐ 事業多角化 ☐ 生産規模拡大 ☐ 生産縮小 ☐ 事業縮小
☐ 行政支援活用 ☐ 新品種導入 ☐ 生産性向上 ☐ ロボット化・省力化 ☐ 出荷・輸送方法の変更 ☐ その他()

具体例(自由記述):

7. 主な出荷先と販売額の比率 当てはまるもの全てに ☒ をつけ件数、比率をご記入ください

主な出荷先	☐ 市場出荷			
	☐ 市場外出荷 »		取引先件数 件	取引先比率 小売 %、業務用 %
販売額の比率	市場出荷	%	契約栽培	%
			直販・EC サイトなど	%
			その他	%
				計 100%

IV. スマート化について

1. スマート化のシステム・ツール導入状況 使用中および導入を検討中のもの全てに ☒ をつけ、具体名をご記入ください

※1つのシステム・ツールに複数の機能がある場合、具体的な当該サービス・装置名をそれぞれご記入ください

	システム・アプリの目的	使用中	検討中	具体的なサービス・装置またはメーカー名
経営	①販売管理(実績管理ツール等)	☐	☐	
	②資材管理	☐	☐	
	③その他営農・販売支援(EC・フリマアプリ等)	☐	☐	
栽培	④栽培・作業記録・管理	☐	☐	
栽培	⑤防除記録・管理	☐	☐	
環境制御	⑥環境制御	☐	☐	
自動運転・ 作業軽減 (ロボット等)	⑦移植・定植自動化装置	☐	☐	
	⑧収穫・搬送装置	☐	☐	
	⑨選果・包装装置	☐	☐	
センシング・モニタリング	⑩画像センシング(生育判定等)	☐	☐	
	⑪環境モニタリング(温湿度計測・記録システム等)	☐	☐	
	⑫作業モニタリング(IC タグの活用等)	☐	☐	
	⑬センシング・モニタリングその他	☐	☐	
その他	⑭その他※例:AI を活用したその他システム等	☐	☐	

2. スマート化のシステム・ツール導入後の効果 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 収量向上 ☐ 省力化 ☐ 品質向上・均一化 ☐ 収益性向上 ☐ 労務管理の適正化 ☐ その他()

3. スマート化のシステム・ツール導入・活用における課題 当てはまるもの全てに ☒ をつけてください

☐ 使用方法が難しい ☐ コスト ☐ 効果がわかりにくい ☐ 他システムとの連動性 ☐ その他()

V. 新型コロナウイルス感染症の影響 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、そのほかご自由にご記入ください

※コロナ禍およびウィズコロナによる日々の栽培・経営への影響、その対策や工夫、スマート化が役立った場面等ありましたら、ご自由にお答えください

☐ 人手不足 ☐ 販売先・売上げ減少 ☐ 販売先・売上げ増加 ☐ 資金不足 ☐ 調達・流通関連 ☐ その他 ☐ 影響なし

VI. 施設園芸に係る国の支援措置に対する要望 当てはまるもの全てに ☒ をつけ、そのほかご自由にご記入ください

要望	☐ エネルギー高騰対策 ☐ CO ₂ 排出削減対策(例:施設・システム導入費の支援、技術開発の先導など) ☐ 異常気象対策 ☐ 技術開発のための研究支援 ☐ 人材確保支援 ☐ 研修・教育機会の提供・充実化 ☐ AI・スマート化への支援(例:無料アプリの提供や教育人材の派遣など) ☐ 海外展開時のフォロー ☐ 農地としての取扱い等 ☐ その他()
	※その他国の支援措置に対して要望など(自由記述) 例:SDGs 対応事業者への優遇、国主導での技術・システム開発等

自由記入欄 設問・調査票、その他ご意見等ございましたらご自由にお書きください

令和 6 年度みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち
スマート農業の総合推進対策のうち
データ駆動型農業の実践・展開支援事業のうち
スマートグリーンハウス展開推進

事業報告書（別冊 1）
全国実態調査・事例調査
令和 7 年 3 月

一般社団法人日本施設園芸協会
東京都中央区東日本橋 3-6-17 山一ビル
TEL 03-3667-1631